

○ 東北地方の火山活動

管内月間火山概況（令和 7 年 11 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（11 月 30 日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 2（火口周辺規制）	岩手山
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、秋田駒ヶ岳 鳥海山、栗駒山、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山
	活火山であることに留意	恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

各火山の活動状況及び予報警報事項（11 月 1 日～30 日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

岩木山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

八甲田山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十和田〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

2023 年以降、中湖^{なかのうみ}付近の深さ 5 km 前後が震源と推定される火山性地震の発生頻度がやや高い状態であり、GNSS 連続観測では、2023 年前半から主に十和田湖を挟む東西の基線でわずかな変化が認められています。火山活動は深部にやや変化が認められるものの、概ね静穏に経過しています。

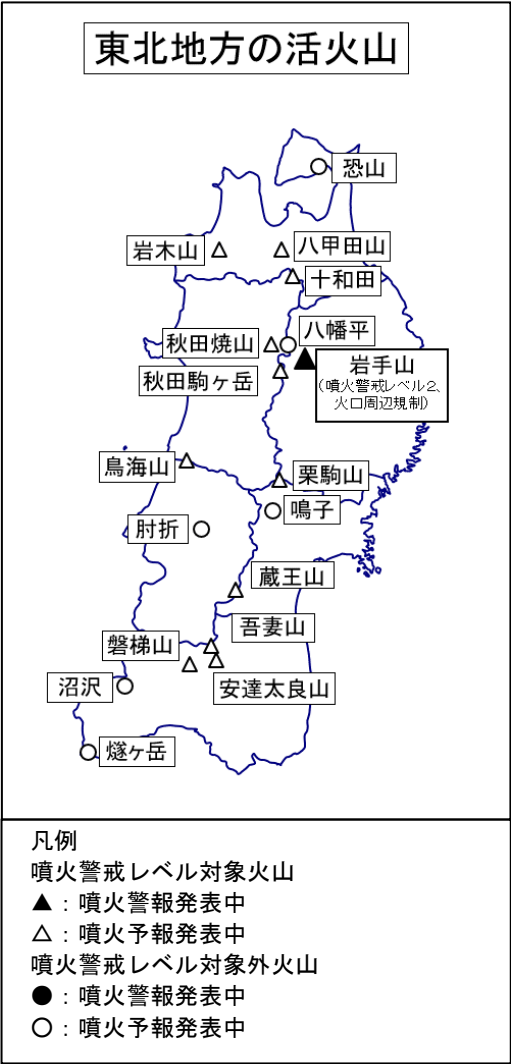
秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

GNSS 連続観測では 2020 年中頃から秋田焼山を挟む基線で伸びの変化が継続していますが、その他の火山活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

岩手山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

岩手山周辺の傾斜計やひずみ計、GNSS 連続観測により 2024 年 2 月頃から見られている山体の深いところの膨張を示す地殻変動は、緩やかに継続しています。
黒倉山付近で発生している微小な火山性地震は、8 月上旬以降少ない状態であるものの、2024 年前半よりは多い状態で経過しています。

引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす



噴火が発生する可能性があります。

西岩手山の想定火口から概ね2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、噴火時には火口の風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

山頂付近では、2017 年9月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。また、女^め岳^{だけ}付近では2015 年頃まで地熱域の拡大が認められ、その後大きな変化は認められていません。引き続き地震活動や熱活動がやや高まった状態で経過していますが、その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

鳥海山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

栗駒山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

蔵王山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

吾妻山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、活発化を示す傾向は認められません。火山活動は概ね静穏に経過しています。火山ガスや噴火・地熱の活動は継続していますので、入山する際には注意してください。

安達太良山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

磐梯山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、概ね静穏に経過していましたが、12 月1 日（期間外）に山頂付近を震源とする火山性地震が一時的に増加しました。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報警報事項に変更はありません。

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。